

在ボストン日本国総領事館主催

ニューイングランド大学生 第二回日本語コンテスト

The Second Annual Japanese Language Contest for
New England College Students



April 21, 2012



第二回ニューイングランド大学生日本語コンテストを実施できる運びとなり光栄です。当コンテストは、エッセイ部門とスピーチ部門の二部門からなり、ニューイングランド地域で日本語を学習する大学生を対象としています。日本語学習者の皆様に日頃の学習成果の発表の場を提供するとともに、日本についてより一層知って頂くことを目的としています。

昨年、日本は東日本大震災という稀有の災害に見舞われました。一方、今年は、日本からワシントンDCへの桜寄贈百周年記念の年となります。これらことから、今年のエッセイ部門のテーマは「東日本大震災について思うこと」「私にとつて桜とは」といたしました。震災被災者を思うエッセイには胸が熱くなり、はかないピンクの桜のイメージは万国共通だと感心いたしました。甲乙つけがたい作品に審査員は悩まされましたことと思います。スピーチ部門では、漢字から、日米の給食、関西弁から日本でのインターン経験など様々な内容の原稿が集まり、こちらも原稿を見た限りでは甲乙つけがたく、コンテスト当日のスピーチが楽しみでなりません。

内容の素晴らしさもさることながら、今年度はエッセイ部門には二十八作品、スピーチ部門には二十四作品もの参加を得ました。毎年応募数が増えていることも嬉しいことです。

この中から選ばれたエッセイ部門入賞作品を表彰するとともに、本コンテストについて日本語教育関係者や一般の方々にも知って頂くために本小冊子を作成しました。この小冊子が日本語学習者の刺激となり、次回日本語コンテストにより多くの参加者が得られることを期待したいと思います。

最後になりましたが、ご指導くださった先生方、審査員の方々、賞品をご提供下さいました企業・団体の方々のご協力に厚く御礼申し上げます。

平成二十四年四月

在ボストン日本国総領事

引原 毅

第2回日本語コンテストプログラム

平成24年4月21日(土)

1. 開会の辞

2. 挨拶

在ボストン日本国総領事館総領事 引原 毅

3. 審査員紹介

4. スピーチ 中級の部

- | | | | |
|-----|---------------------------------------|-------------------------|------------|
| (1) | Man Yee Law | Northeastern University | 私のストレス解消法 |
| (2) | Marcus Carroll | Northeastern University | 僕は漢字のトリコです |
| (3) | Emma Murphy | Mount Holyoke College | 赤い靴はいてる女の子 |
| (4) | Daniele Evangelista
Leite de Silva | Wellesley College | 日本の強み |
| (5) | Xiao Shao | UMass Amherst | 虹色の思い出 |
| (6) | Jessica R. Rubin | UMass Amherst | 新しいとびら |

5. スピーチ 上級の部

- | | | | |
|------|----------------------------|---------------------|--------------------------------------|
| (1) | Jae Young Park | Brandeis University | 日本の感性は 36.5 度 |
| (2) | Zean Chen | Boston College | 日本とアメリカの給食 |
| (3) | Min Hyeong Ki | Boston College | 変な日本語、立派な日本語 |
| (4) | Christopher S.N.
Curtis | Colby College | スープキッチン |
| (5) | Justin S. Pizzo | Trinity College | 子供たち：
日本と世界の将来と未来
力になる「もったいない」 |
| (6) | Xinyi Yan | Wellesley College | |
| (7) | Kaiyan Ding | Trinity College | 友達でいてくれて、
ありがとう |
| (8) | Di Jin | MIT | 日本で働くことの複雑さ |
| (9) | Lauren Makishima | Boston University | 日本人になること |
| (10) | Zachary Whitney | Williams College | 我が大和詞の旅 |
| (11) | Jihoon Song | Harvard University | 無理な区別の副作用 |
| (12) | Haley Blum | UMass Amherst | いろいろな地域、同じ人間 |

6. エッセイ部門入賞者エッセイ朗読及び入賞者への賞状・副賞授与

7. スピーチ部門審査結果発表

在ボストン日本国総領事館首席領事 渡邊信之

8. 入賞者への賞状・副賞授与

9. 審査講評

講談社 作田 貴志

10. レセプション

審査員 エッセイ部門

江渕 崇

作田 貴志

セイヤー 桂子

森田喜代子

渡邊 眞紀

渡邊 信之

審査員 スピーチ部門

井熊 康之

太田 清史

グラハム 智子

作田 貴志

中村 宏之

畑 正高

渡邊 信之

中川 豊巳 (予選)

出場者の大学の日本語先生 (自校学生以外を審査)

協力頂いた企業・団体

講談社アメリカ

香老舗 松栄堂

ポストン・レッドソックス

独立行政法人 国際交流基金 (ジャパンファウンデーション)

ハーバード大学日米プログラムアシエイツ (朝日新聞記者)

講談社アメリカ上席副社長

ポストン日本協会理事

タフツ大学日本学科日本語講師

国際交流基金ロサンゼルス日本文化センター専任講師

在ポストン日本国総領事館首席領事

昭和ポストン日本語プログラム担当

大谷高校校長

ノーブル・アンド・グリーンノー・スクール日本語教師

講談社アメリカ上席副社長

ハーバード大学日米プログラムアシエイツ (読売新聞記者)

松栄堂社長

在ポストン日本国総領事館首席領事

ポストン日本語学校校長

エッセイ部門入賞者

Award Winners

中級レベル Lower Intermediate Division

一位 1st Place

Mengjie Yang Northeastern University

地震の思い出-災害の中で美しい愛

二位 2nd Place

Minjee Kim Smith College

あなた、私、そして全世界

三位 3rd Place

Kathy Wan Colby College

桜を思い出すと

上級レベル Advanced Division

一位 1st Place

William Kim Harvard University

震災から学んだ「絆」の意味

二位 2nd Place

SoonHo Park Bowdoin College

小さな桜の花びらの旅

三位 3rd Place

Jiyoun Kim Middlebury College

桜の愛

中級レベル 一位

地震の思い出―災害の中で美しい愛

メンジー ヤン

去年の東日本大震災が発生した時、私は香港で工場実習をしていました。会社で日本の地震のニュースを見て、思わず涙がこぼれました。新聞で「落ち着いて秩序を守る日本人」について、たくさん報告を読んで、とても感動しました。「物が散乱しているスーパーで、皆は列に黙って並んで買い物をする」光景について、中国のツイッターでたくさん議論がありました。小さい島国ですが、日本はいろいろな災害が多いです。でも災害が発生するたびに、立ち上がってきました。「日本、すごい」と言うコメントがたくさんありました。

私の故郷は中国の四川です。四年前にマグニチュード8.0の地震が発生しました。その時、私は高校生でした。四川の高校で勉強していました。私の町は地震の中心から近くなかったですから、家族や友達などは皆大丈夫でした。でも、その悲劇の経験とあの時感

じた人々の優しさと大きな愛を忘れられません。今でも、地震の経験を思い出すたびに、感動します。

日本も、四川も、大震災があつて、国中も世界中も、皆が一つになりました。私のお婆さんの町は四川地震に破壊されました。近くの農家の人は自家野菜を持って町に来て、町の人にご飯を作ってくれました。「私は今せめて畑がありますから、食べ物があります。でも町に住んでいる人は今何ありません。何かしてあげたいです。」とお婆さんに言いました。それを聞いて、私は、涙が出ました。

地震の中で、家族が死んだり家が壊れたりするのは、とても悲しい事です。しかし、心が痛い時、他の人を助けてあげて、自分の力を感じれば、無力感を脱出できます。地震は「人々の愛の爆発」を引き起こしました。こんな大きな愛が永遠に続くことを願っています。

中級レベル 二位

あなた、私、そして全世界

ミンジー キム

去年3月11日東日本に大震災、福島原発事故が起った。この事件は全世界の人々を驚かせた。私達が原発を使う理由は簡単だ。まず経済的だし、環境に易しいからだ。しかし、代表的な短所は、福島事件が見せたようにちよつと間違えば非常に危険だということだ。私は原子力が今全世界に必要不可欠なことになっているが、核を規制する国際的なシステムとか基準がないのが本当に大きな世界問題だと思った。核というものは、その特性のために一度問題が起れば他の国も関わらなければならない。今皆が福島に注意を払っていることも原発が一度壊れれば、風、食べ物、海水など全てを通して発癌物質が広がるからだ。このように、核は一つの国の問題とか責任ではないから、これ以上の危険を止めるためには国境を越えた取り組みと政府の間の協力がとても必要だ。そして、政府の間の機構や国際連合を利用して強力な規

定が必要だ。現在、IAEAという国際連合から出た国際原子力機構があつて、国際的な基準を「提示」だけしているのだが、この機構の限界はとても明らかだ。まず、この機構は各国を相手に何のルールも強制的に執行することができない。つまり、この機構の基準を各国が守らなくても何も処罰がないわけだ。二番目の限界は、この機構の国際基準を決める人々は、科学者ではなくて過去、政府官僚だった人たちだ。そしてときどき政界の人々が調査を阻むこともある。こういう短所を改善するためには全世界が一つにならなければならない。

日本での福島事件も同じだ。これは日本だけの責任とか問題ではなくて、全人類が国境を越えて一緒に解決し続けなくてはいけない。この福島事件は皆に私達がどんな問題を抱えているか教えてくれる。全世界は今も一つ一つの社会になりつつある。そして、皆が同じ問題に向かう時代が来るはずだから、今は、何よりも世界のために皆が協力するのが一番大事だと思う。

中級レベル 三位

桜を思い出すと

キャシー ワン

日本を象徴する花といえば、必ず桜が頭に浮かぶ。桜は古くから日本文化に織り込まれている。昔から桜は簡素とか純真とかを表してきた。桜の生命が七日間しかないから、はかなさを象徴することもある。

私は日本に行く前から、桜が風が吹くと木の枝から徐々に落ちるのがとてもロマンチックと思っていた。公園で家族や恋人と一緒にピクニックをしている時に桜の花びらが降っていたら、きれいな記憶ができる。

去年の春、私は日本で留学した。行く前によく「花見」というお祭りについて聞いていたが、そんなに息を呑むようなイベントだとは思わなかった。清水寺に桜を見に行った時、一番大きい桜の木の周りにお年寄りから子供まで大勢の人が集まって話していた。この経験から習ったことは桜には、人を助ける力まであるということだ。

例えば、桜には結合させる力があると思う。普通、日本

人は忙しすぎて休憩をあまり取れないが、桜が咲いていると、皆で週末に花見をしたり、久しぶりに人と話し合えるのではないだろうか。昔の日本人もきつとそう思っただけで、今のように桜が咲いている所で集まったりしたのかもしれない。例えば、花見というお祭りは昔からの習慣だ。昔の祝い方と最近の祝い方が少し変わってきただけだ。これは桜が日本文化において大切な存在だということとを証明する。

今まで、賑やかで繁忙な都市の中でも、桜が咲いている場所に行くと、不思議に昔に戻った感じがする。そういう気持ちで、桜が並んでいる通り道を散歩すると、どんな悩みも忘れられるし、仕事のストレスを忘れてリラックスして、頑張ろうという気持ちにもなる。桜のピンクか白い色は、他の花と全然違うから、唯一無二な特別な花だと思っている。その二つの色は私にとって心を落ち着けてくれる沈静な効果がある。だから、今、私にとって、桜は短い人生や穏やかな気持ちや、豊かな日本の歴史を感じさせてくれる不思議な花である。

上級レベル 一位

震災から学んだ「絆」の意味

ウイリアム キム

毎年、日本ではその年の世相を表す漢字を選び、「今年の漢字」として公表する恒例行事がある。2011年の漢字は「絆」で、それを聞いて私はふと思った。2011年は正に東日本大震災の影響で、日本にとって非常に苦しい年だった。しかし「絆」はそれとどのような関係があり、そもそも「絆」というものは何なのだろう。

震災のニュースを初めて見た3月11日の朝、私が抱いた感情は深い「悲しみ」だった。10年ぶりに起きたマグニチュード9.0の大地震で家屋や自動車などが絡み合っただけでなく、津波に飲み込まれていく光景は非常に残酷だった。7年前に初めて日本に行った時、私を一番最初に迎えてくれた仙台空港、土人形の絵付けに挑戦した仙台市博物館、露天風呂でゆったりと過ごせた旅館など、仙台の町並みは未だに美しい日本のイメージとして私の頭の中に刻み込まれていて、その仙台の被害を考えると非常に胸が痛くなった。

しかし、その悲しみから「絆」を見出させてくれたのは原子力に関する討論会で出会った東北大学の菅原さんだった。大震災を目の当たりにした仙台出身の彼に「絆」の意味を尋ねたところ、彼は「人間の絆は何よりも強く、地震や津波から命を守るために必死に戦った人々の心の繋がりであり、悲しみを分かち合う人々の心の優しさを表すものだ」と答えた。そして私は気づいた。「絆」は悲しみを乗り越えようとする人の意志と思いやりから生まれた日本人の団結を象徴することを。

大震災から一年が経った今、まだ多くの被災者が不安の中で暮らしている。その中には家族を失い、仮設住宅で寂しく生活をしている人もいるようだ。そこから私には新たな目標ができた。今年、東京で3ヶ月間インターシップをする予定である。週末にはボランティアをしながら多くの人々と絆を築き、避難者の悩みを聞いて、彼らの寂しさや苦しみを和らげてあげたい。その他にも私ができることを精一杯し、「絆」というものを作りたい。

上級レベル 二位

小さな桜の花びらの旅

パク スンホー

無数の桜の花びらが静かに舞い散っていたあの日の公園。陽の光が降り注いでいた公園は、まるで、紙吹雪がスタジアムの空を覆い、オリンピックの華やかな開会を伝えるようだった。公園の片隅の背が高く苔むした桜の枝のうらには、一枚の小さい桜の花びらがあつた。花びらは目の前の華やかな景色を見ながら、呟いた。さわやかな風は言うに及ばず、暖かい日の光も、花見客の軽い足取りも、美しいことづくめの春日は、暗いつぼみの中で長い冬を耐えた自分へのプレゼントだと。

花びらは想像しなかっただろう。それほど美しい公園には、一、二週間前黒いアスファルトの道を急ぎ足で歩いている人ばかりだったとは。そして、一、二ヶ月前は、それほど華やかな公園には記録的な大雪で誰の姿もない雪ばかりだったとは。目を閉じて考えて

いたら、急に風が吹き花びらに何かを伝えようとするかのように、ささやきかけた。どれだけ歳月が流れたとしても、暗い冬の終わりを告げるのは静かに舞い散る桜の花のわけだ。たとえ、数年後、放射能の恐怖にさらされる惨事が起こったとしても、雪が解け、湖の水面の上にも、手を取り合う恋人たちの手のひらにも、桜の花びらが舞い散る春が必ず訪れるはずだ。

枝から離れ風に身を任せ、花びらは自分がどこにたどり着くのか考えた。湖面に映った満開の桜の中に舞い降りるのか。母と手を握り合っている子供の肩に舞い降りるのか。それとも、桜の下においてある誰かの弁当の上に舞い降りるのか。どこにでも良いだろう。どこにたどり着いたとしても、月日がたつと、暗くて長い冬の後には必ず桜の花が舞い散る春の日が訪れるのだから。無数の花びらの中に溶け込んでいった小さな桜の花びらの旅の果ては誰にも分からない。きっと、苦しいことを乗り越え、強く生きていくのではないだろうか。

桜の愛

ジヨン キム

桜。薄いピンクの小さな花。春になると開花する桜。その美しさに魅了された大勢の人は木の下に集まって、写真を撮ったり、弁当を食べたりしながら時間を過ごす。

私も一度はその中の一人であった。しかし、本当に不思議なことは、ピンクやかわいいものに関心もない私が毎年春になると桜を見に家から一番近い桜の街路樹に行ったのだ。私も桜の美しさに魅了されたのかしら。いや、私はただ桜が好きな彼女に惚れていたのだ。

ある春の日、桜の街路樹を歩いている途中で彼女は一つの花びらを拾って、私に見せてくれた。

「かわいいでしょ？」と彼女は言った。

「うん。」

「桜を見ると嬉しくなる。悲しい事も辛い事も全部忘れてくれるような気がする。毎日が春だったらいいなあ。」と彼女は言った。

そうだ。私は桜がかわいいと思っている彼女がかわいいと思った。私は桜を見て嬉しい顔をしている彼女を見ると嬉しくなった。私は彼女を見るだけで悲しい事も辛いことも全部忘れられるような気がした。私も毎日が春だったらいいと思った。

そして、彼女は今まで拾った花びらを頭の上に投げた。その瞬間、私は世の中で一番美しい雨を見た。

しかし、春も終わりが来るように私たちの愛も終わってしまった。留学することにした私は何年間病気だった彼女を残して、三月にアメリカに行くことになった。私がアメリカに来てから一か月以内に彼女は癌で亡くなってしまった。

その年の桜を見ずに亡くなった彼女を考えると心がいつも痛い。しかし、本当に不思議なことは、彼女が好きな桜を見ると彼女と一緒に過ごした素敵な時間が思い出すのだ。

そんなに小さいのに。私の痛みを消えてくれる桜。私の初恋を思い出させる桜。妙な花。桜。

在ボストン日本国総領事館主催

第二回日本語コンテストのお知らせ

次回日本語コンテストは、今年度同様に、スピーチ部門、エッセイ部門に分けて行う予定です。詳しくは追って在ボストン日本国総領事館ホームページ等ご案内いたします。

<http://www.boston.us.emb-japan.go.jp/ja/index.htm>

皆様のご参加をお待ちしております。

日にち：二〇一三年春

場所：グレーターボストン地域

部門：エッセイコンテスト

中級・上級

スピーチコンテスト

中級・上級

対象：ニューヨークランドの大学に在籍している大学生（大学院生も含む）

お問い合わせ先：

在ボストン日本国総領事館 大津賀

infocul@cg.jpas.org